

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2016年夏)の結果

当センターでは、2016年夏のボーナス予想や暮らし向きについて、千葉銀行40ヶ店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

概要

1.ボーナス予想額 : 56万5千円(昨夏比、4千円増加(0.7%増))

今回のアンケートは、4月上旬に実施したが、中国経済の減速、原油安、円高等により企業業績悪化の懸念が生じ日経平均株価が16,000円前後まで下がったタイミングでの調査となった。

今夏のボーナス予想額は56万5千円で、昨夏の実績比で4千円増加するアンケート結果となった。予想伸び率は「+0.7%」であり、昨夏のアンケート結果「+2.1%」に比較すると1.4ポイントの減少となるが、昨冬は同「▲0.5%」であり、今回は「増加予想」に戻った。

2.暮らし向きアンケート調査について

今後半年間の生活全般の見通しについて、「悪くなりそう」との回答(19.0%)が「良くなりそう」(9.0%)を上回っており(残り72.0%は「変わらない」)、これまでのアンケートと同様に慎重な姿勢が窺える。

▽ボーナスの増減予想では、「増えそう」が、16.5%(昨夏17.7%)と1.2ポイントの減少。一方「減りそう」は13.1%(昨夏11.2%)で1.9ポイント増加した。また「変わらない」は70.4%(昨夏71.1%)で7割余りを占める。

▽ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「ローンの返済」、3位は「生活費の補填」で、以下「教育・教養」、「買い物」、「旅行・レジャー」の順となった。

▽貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」79.0%、「ゆうちょ貯金」9.2%、「社内預金」6.8%、「株式・投信」1.9%の順となっている。銀行預金の堅調さが今夏も目立っている。

▽貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」、4位「不時の備え」、5位「住宅関連資金」、以下「車の維持管理」、「結婚資金」、「耐久消費財」の順となっている。

▽購入希望品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」が上位を占めた。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位にあげている。

調査結果

1 ボーナスの増減予想

—ボーナスの増減予想では、「増えそう」が16.5%(昨夏17.7%)と1.2ポイント減少した。一方「減りそう」は13.1%(昨夏11.2%)と1.9ポイント増加した。また「変わらない」が70.4%(昨夏71.1%)で7割余りを占める。—

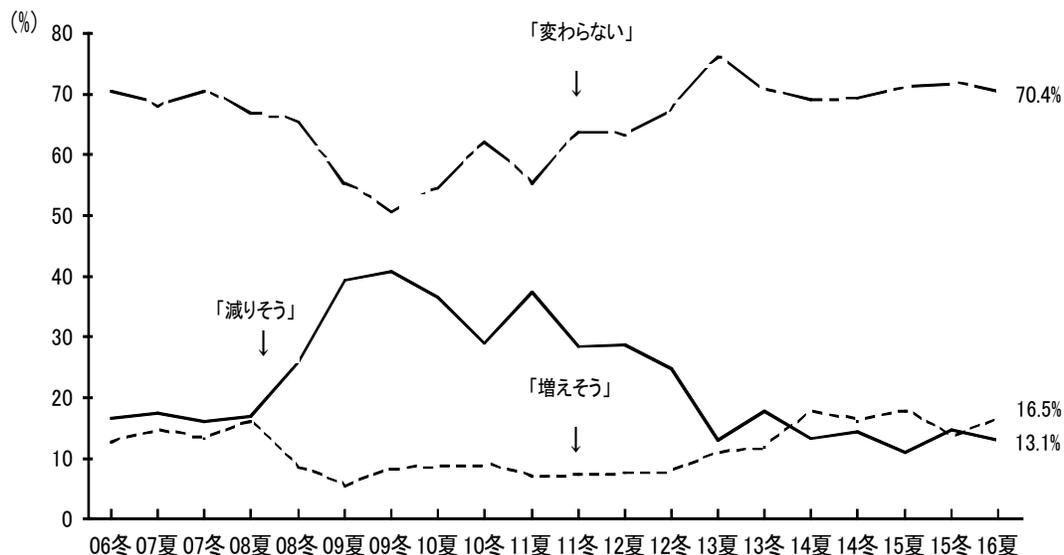
増減予想を年齢階層別にみていくと、30歳未満は「増えそう」が3割以上を占め、「減りそう」(6.2%)を大幅に上回っている。30歳代、40歳代は「増えそう」が「減りそう」を上回っているが、あまり差がなく、特に30歳代は「増えそう」の割合が大きく減少。そして50歳以上は「減りそう」の方が多い状況が続き、差が開きつつある。「変わらない」は、依然として全年齢層で過半を占めている(図表-1、2)。

なお、ボーナス予定日は、「6月中」が全体の59.3%で、「7月中」が29.8%との回答であった。

図表-1 ボーナスの増減予想(対前年比)

		(構成比、単位:%)		
		「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
全 体	14夏	17.6	13.2	69.2
	15夏	17.7	11.2	71.1
	16夏	16.5	13.1	70.4
30歳未満	14夏	29.8	12.5	57.7
	15夏	29.1	9.0	61.9
	16夏	31.9	6.2	61.9
30歳代	14夏	21.2	6.6	72.3
	15夏	24.3	8.1	67.6
	16夏	16.7	12.1	71.2
40歳代	14夏	12.9	15.3	71.8
	15夏	13.4	10.4	76.1
	16夏	14.2	11.6	74.2
50歳以上	14夏	12.3	16.9	70.8
	15夏	10.3	15.4	74.3
	16夏	9.4	20.5	70.2
注) 不明、無回答を除いた構成比				

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



2 ボーナスの予想額

—今夏のボーナス予想額は56万5千円で、昨夏の受取額(回答者の実績)比で4千円上回る結果となった。予想伸び率は+0.7%で、昨夏の+2.1%(10千円増加)に比較して1.4ポイント減少となるが、昨冬は同「▲0.5%」であり、今回は「増加予想」に戻った。

予想額では、「50歳以上」を除く全ての年齢層で前年を上回る受取額を予想しており、特に「30歳未満」は伸び率が9.4%と高い。

また、勤務地別で見ると、都内勤務者が県内勤務者よりも予想額で25.9万円高く、予想伸び率も1.3ポイント上回る回答となった(図表-3、4)。

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予想額 (万円)	予想伸び率 (対前年夏、%)
全体		56.5	0.7
30歳未満		42.7	9.4
30歳代		49.9	0.2
40歳代		60.6	1.3
50歳以上		64.9	△2.9
勤務	県内	52.0	0.3
地別	東京	77.9	1.6

図表-4 ボーナス予想伸び率の推移(全体)



3 ボーナスの配分予定

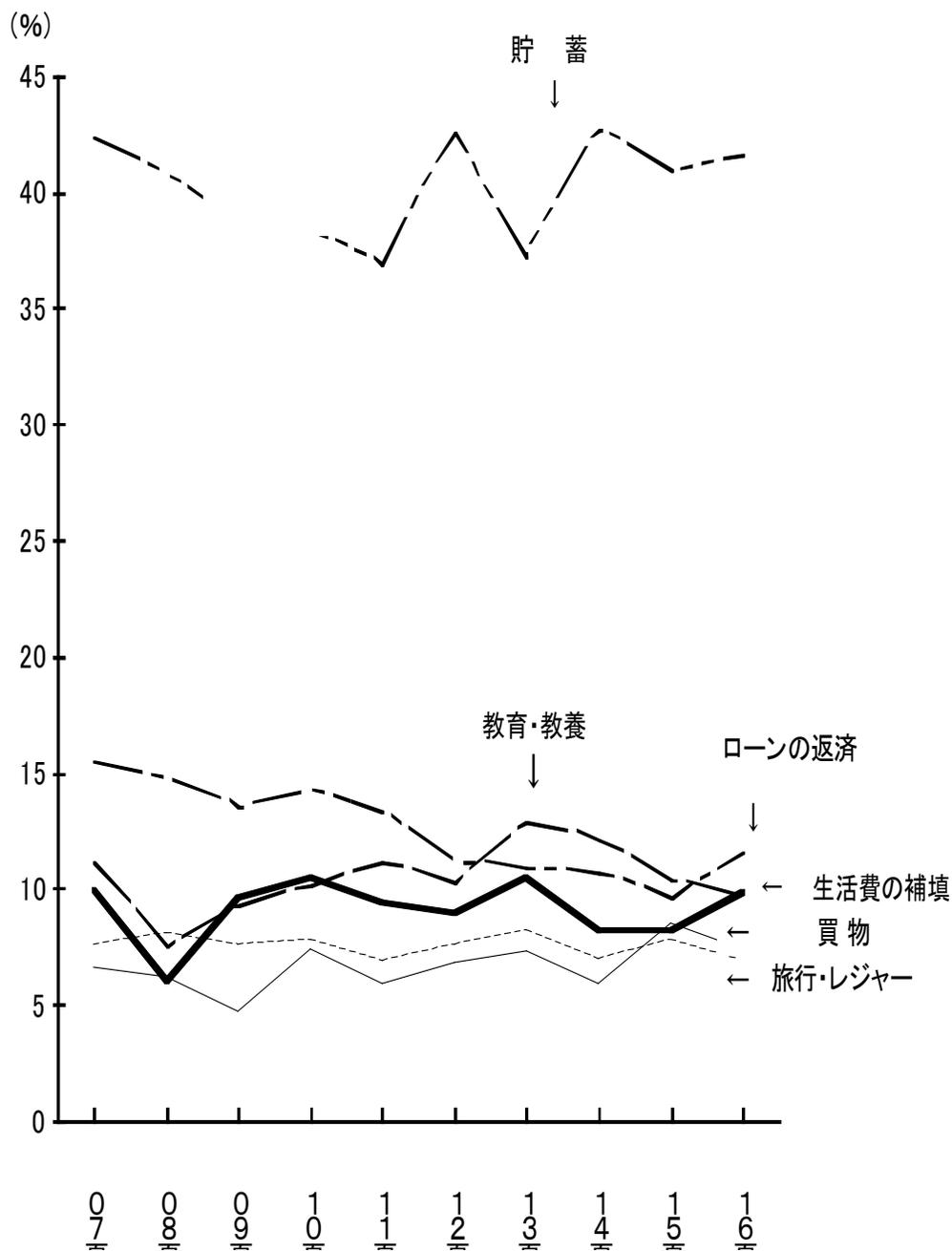
——ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「ローンの返済」、3位は「生活費の補填」である。以下「教育・教養」、「買い物」、「旅行・レジャー」の順となった。——

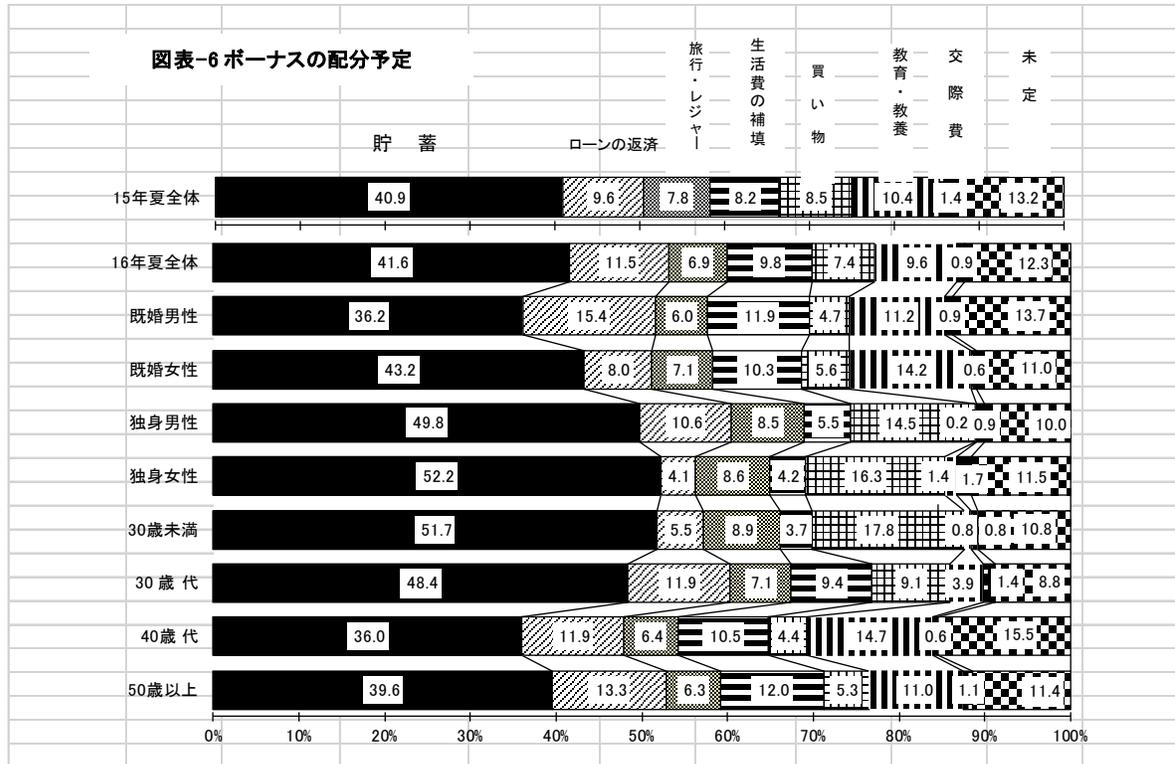
ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(41.6%)、2位「ローンの返済」(11.5%)、3位「生活費の補填」(9.8%)で、以下「教育・教養」(9.6%)、「買い物」(7.4%)、「旅行・レジャー」(6.9%)、「交際費」(0.9%)の順となっている。「貯蓄」は、経済情勢にかかわらず常にトップにあり、堅実性の重視が感じられる。

既婚・独身、男・女を問わず、「貯蓄」に回す割合が高い。特に独身者は女性、男性ともに貯蓄志向が高く、女性は52.2%、男性は49.8%を貯蓄に回すと回答している。「貯蓄」以外の項目では、独身者は既婚者に比べて、「買い物」のウェイトが高く、既婚者は「教育・教養」、「生活費の補填」や「ローンの返済」が高く、独身者と既婚者のそれぞれの特徴を表わしている。

年齢別でも、全ての年齢層において、「貯蓄」が一番の配分となっており、特に、30歳未満(51.7%)と30歳代(48.4%)は高い。「貯蓄」以外の年齢階層による特徴としては、30歳未満は「買い物」、30歳代と50歳以上は「ローンの返済」、40歳代は「教育・教養」への配分割合が高くなっている(図表-5、6)。

図表-5 ボーナスの配分予定の推移

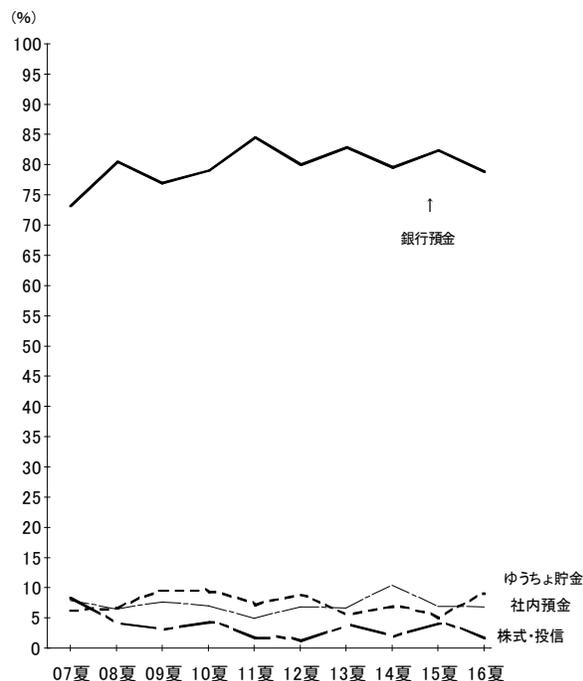




4 貯蓄の内訳

—貯蓄の内訳をみると、「銀行預金（財形貯蓄を含む）」79.0%、「ゆうちょ貯金」9.2%、「社内預金」6.8%、「株式・投信」1.9%の順となっている。「ゆうちょ貯金」が昨夏（5.1%）から4.1ポイント増加し、「株式・投信」が昨夏（4.1%）から2.2ポイント減少している。銀行預金の堅調さが今夏も目立って

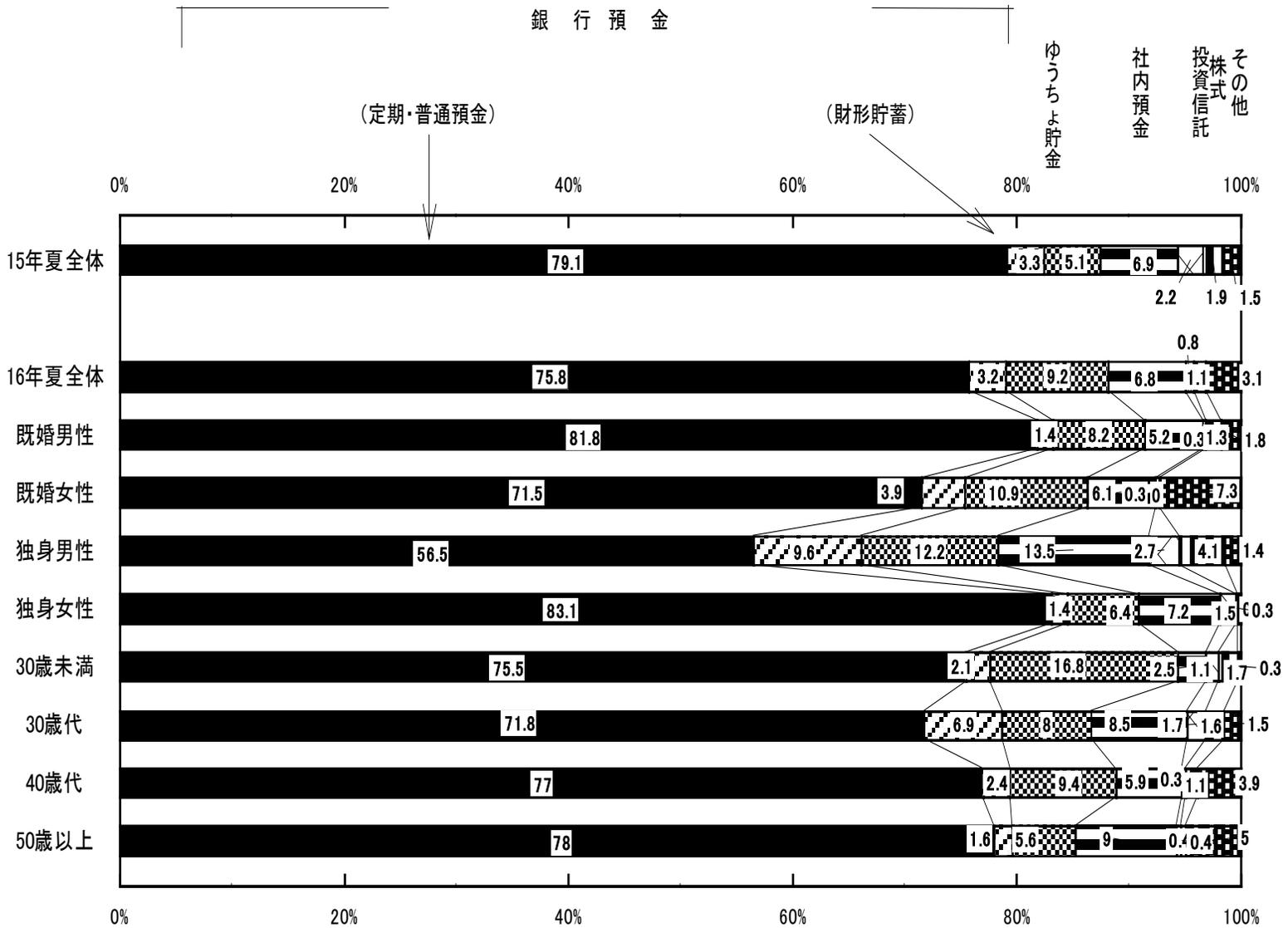
図表-7 貯蓄の内訳推移



いる(図表-7)。—

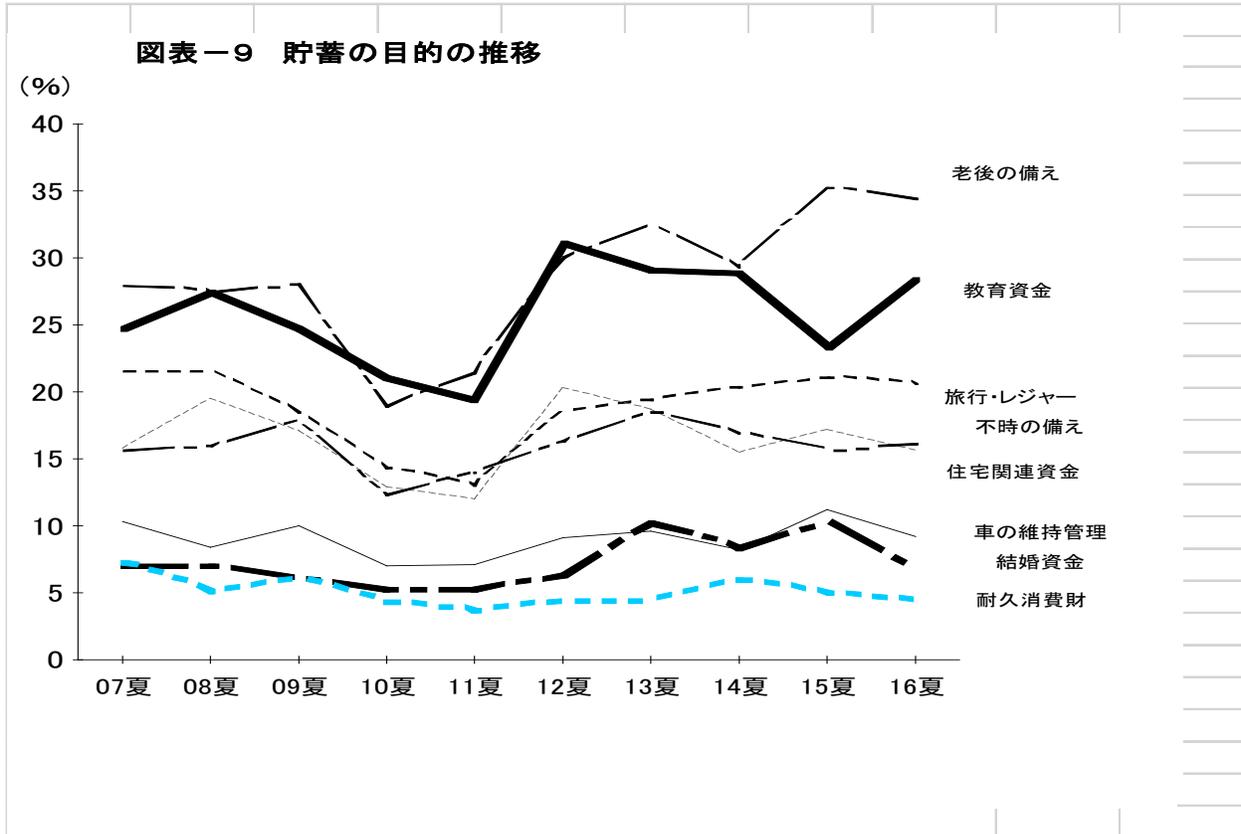
貯蓄の内訳を、既婚・独身、男・女別、年齢別で見ると、いずれも「銀行預金」の割合が一番高い。その中でも独身女性(84.5%)と既婚男性(83.2%)が高い。「銀行預金」以外では、「ゆうちょ貯金」は30歳未満(16.8%)、「社内預金」は独身男性(13.5%)が、それぞれ高い割合を示している(図表-8)。

図表-8 貯蓄の内訳



5 貯蓄の目的

—貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」が上位であった。以下「不時の備え」、「住宅関連資金」、「車の維持管理」、「結婚資金」、「耐久消費財」の順となっている(図表-9)。—

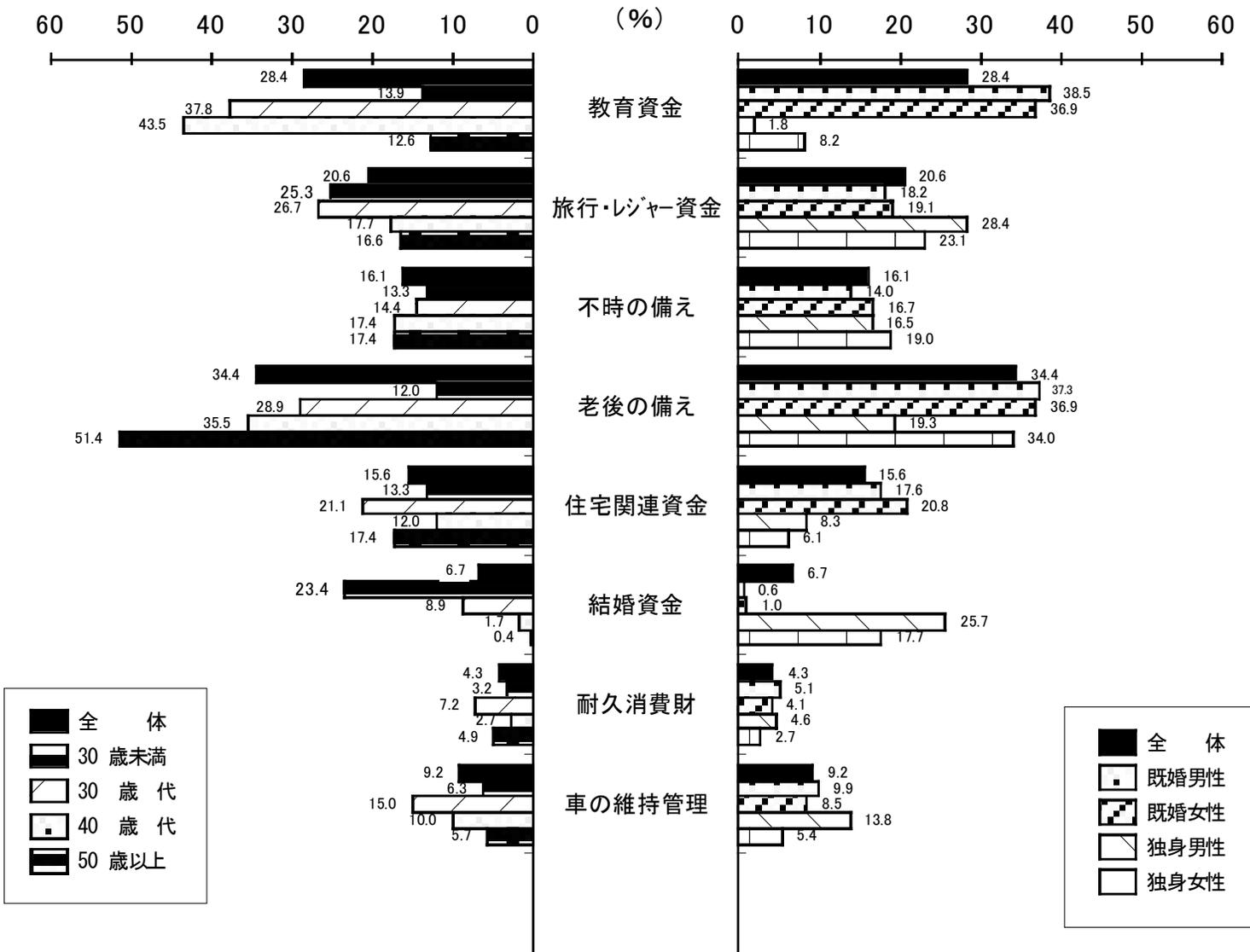


貯蓄の目的(複数回答)は、1位「老後の備え」34.4%、2位「教育資金」28.4%、3位「旅行・レジャー」20.6%、4位「不時の備え」16.1%、5位「住宅関連資金」15.6%、6位「車の維持管理」9.2%、7位「結婚資金」6.7%、8位「耐久消費財」4.3%の順となった。

年齢別にみると、30歳未満は「旅行・レジャー」(25.3%)、「結婚資金」(23.4%)、30歳代は「教育資金」(37.8%)、40歳代も「教育資金」(43.5%)、50歳以上は「老後の備え」(51.4%)が高く、各年代のライフスタイルの特徴が表われている。

既婚・独身、男・女別では、既婚男性は「教育資金」(38.5%)と「老後の備え」(37.3%)、既婚女性も「教育資金」(36.9%)と「老後の備え」(36.9%)が上位を占め、独身男性は「旅行・レジャー」(28.4%)、独身女性は「老後の備え」(34.0%)をトップにあげている。(図表-10)

図表-10 貯蓄の目的(複数回答)



注)左欄は年齢別、右欄は既婚男・女性、独身男・女性別

6 購入希望主要品目

—購入希望主要品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」が上位であった。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位にあげている。—

ボーナスで買いたいもの(複数回答)は、「婦人服」(12.6%)、「紳士服」(9.0%)、「家具・インテリア」(7.7%)の順となった。以下「鞆・ハンドバッグ」、「子供服」「靴」、となった。(図表-11)

				(複数回答、単位：%)			
全 体				既 婚 男 性		既 婚 女 性	
	14夏	15夏	今夏				
婦 人 服	14.5	12.9	12.6	紳 士 服	14.2	婦 人 服	13.2
紳 士 服	8.7	7.4	9.0	婦 人 服	8.3	子 供 服	8.6
家具・インテリア	6.3	8.3	7.7	家具・インテリア	7.8	家具・インテリア	7.1
鞆・ハンドバッグ	6.6	6.8	5.7	子 供 服	6.7	冷 蔵 庫	6.8
子 供 服	6.4	5.3	5.4	ルーフエアコン	5.4	鞆・ハンドバッグ	5.5
靴	7.8	6.3	5.2	独 身 男 性		独 身 女 性	
パソコン	4.7	4.8	4.6	紳 士 服	21.7	婦 人 服	24.7
冷蔵庫	3.9	3.0	3.8	乗用車	5.8	鞆・ハンドバッグ	13.6
化粧品	3.8	3.5	3.7	家具・インテリア	5.8	靴	9.8
ルームエアコン	3.3	3.3	3.3	靴	5.0	家具・インテリア	9.4
乗 用 車	3.2	2.3	3.2	パソコン	5.0	化粧品	8.9

7 暮らし向きの実感と今後の見通しについて

(1) 収入

半年前と比べ、収入が「増えた」との回答は 18.6%で、今後半年間の見通しについて「増えそう」との回答は 14.3%で、4.3ポイント減少。一方「減った」は 14.2%で、今後「減りそう」は 16.9%で 2.7ポイント増加。なお、いずれについても「変わらない」が 7割弱を占める。収入についてはまだ明るい状況ではないことが窺える。

(2) 消費支出

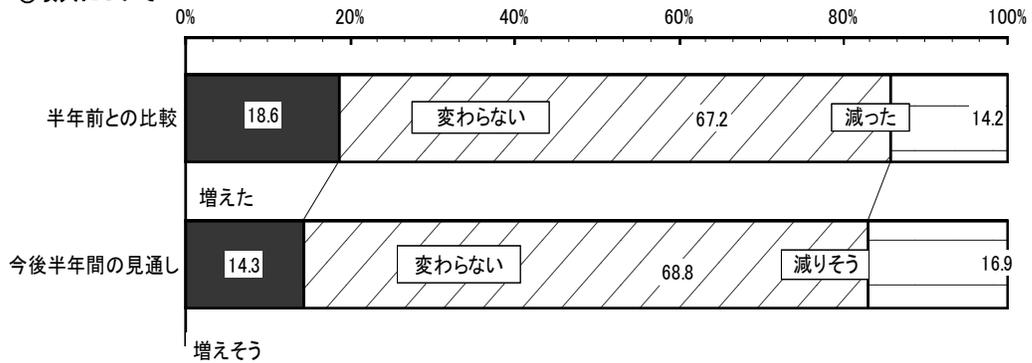
半年前と比べ、支出を「増やした」との回答は 23.5%で、今後半年間の見通しについて「増やす」との回答は 13.1%で 10.4ポイント減少。一方「減らした」は 14.6%で、今後「減らす」は 27.5%で 12.9ポイント増加。家計支出の先行きは、慎重な姿勢の方が上回っている。

(3) 生活全般

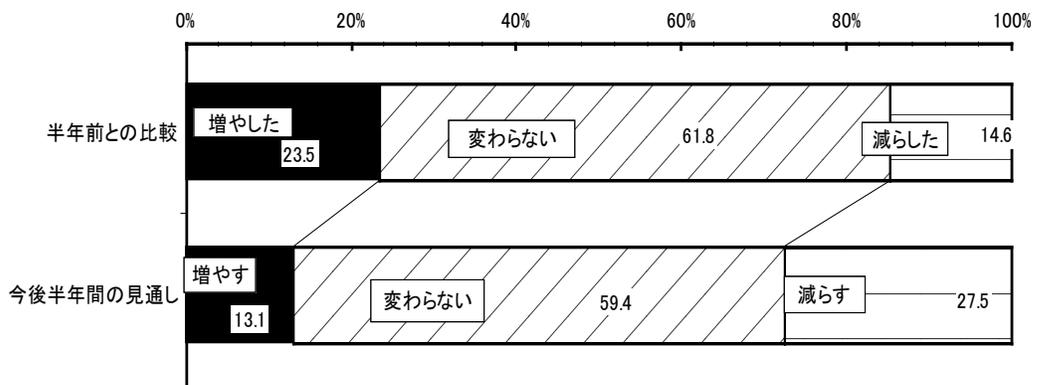
半年前との比較では、「悪くなった」(10.7%)が「良くなった」(8.3%)を 2.4ポイント上回った。今後半年間の見通しについては、「変わらない」が 7割以上を占めるものの、「悪くなりそう」(19.0%)が「良くなりそう」(9.0%)を 10.0ポイント上回る結果となり、景気の先行きに対する慎重な見方が感じられる。(図表-12)。

図表一12 暮らし向きの実感と今後の見通し

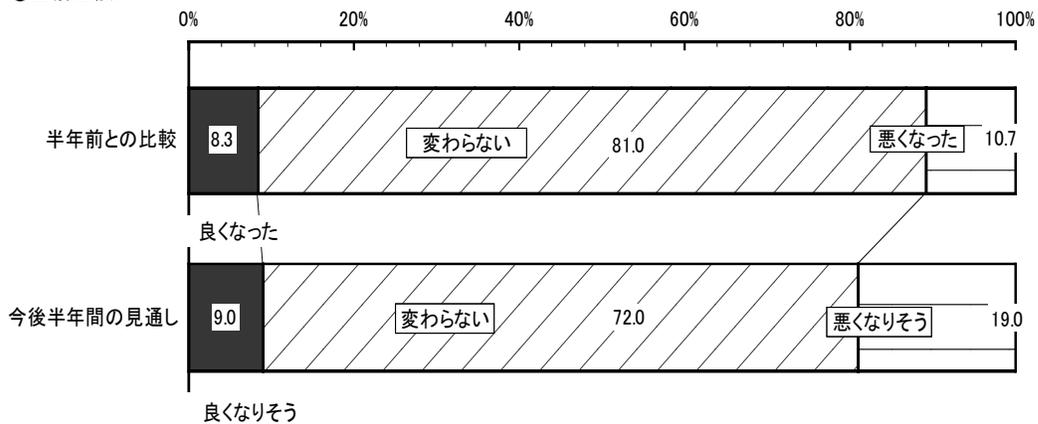
①収入について



②消費支出について



③生活全般について



回答者の構成					(人)
	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	14	59	133	129	335
既婚女性	23	63	110	97	293
独身男性	54	28	20	7	109
独身女性	67	30	36	14	147
計	158	180	299	247	884

アンケート調査実施要領	
①方 法	千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施
②実 施 日	2016年4月4日～8日
③対 象 地 域	県内全域
④対 象 人 員	1,000人
⑤有効回答数	884人
有効回答率	88.4%